

平成26年度自然再生事業実施箇所について

資料－4

H26年度の事業実施箇所は、以下の理由により87k地点のハリエンジュ群落形成箇所を事業箇所として予定している。

【理由】

- ①砂礫河原の面積の減少が著しく、ハリエンジュやアレチウリの繁茂が著しい箇所であること。
- ②平成22年度の試験掘削で冠水頻度を高めることにより砂礫河原が維持されている箇所と隣接しており同様の効果が期待されること。



事業箇所の河道の変遷

87km~88km

大規模砂利採取期間

1947年(S22)



1980年(S55)



1995年(H7)



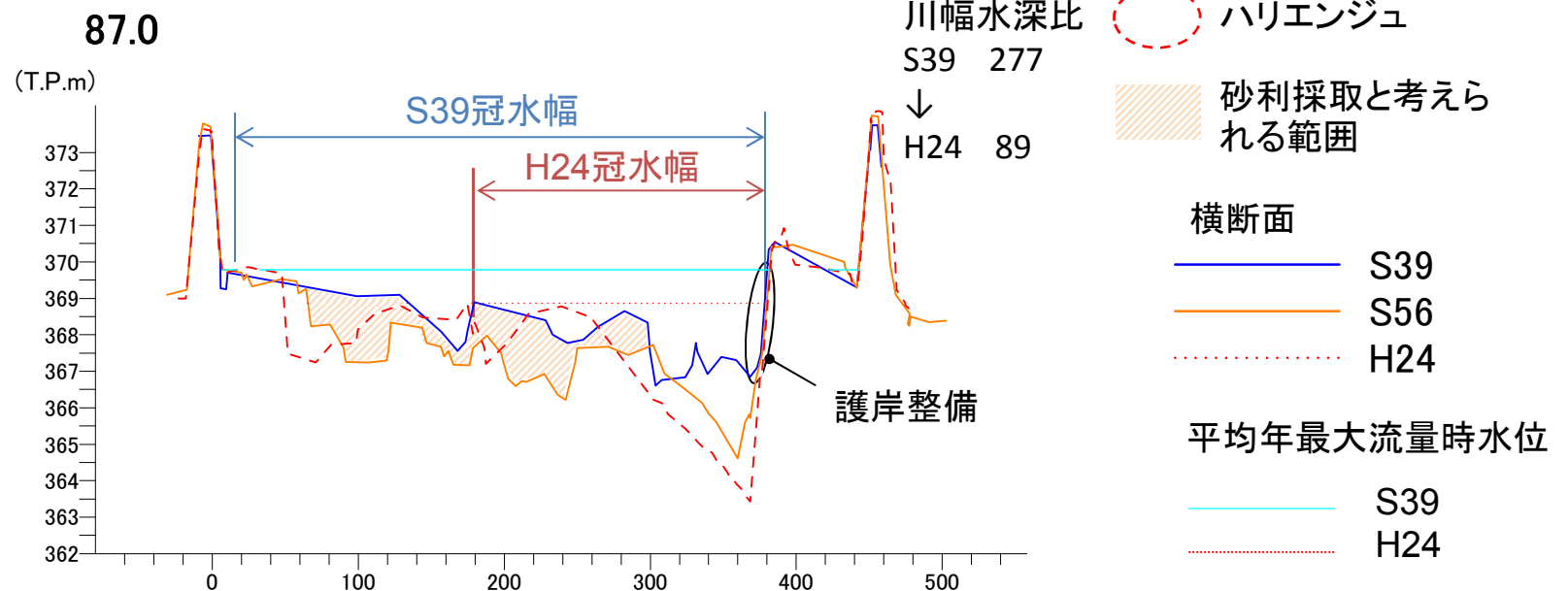
2013年(H24)



護岸整備と考えられる箇所

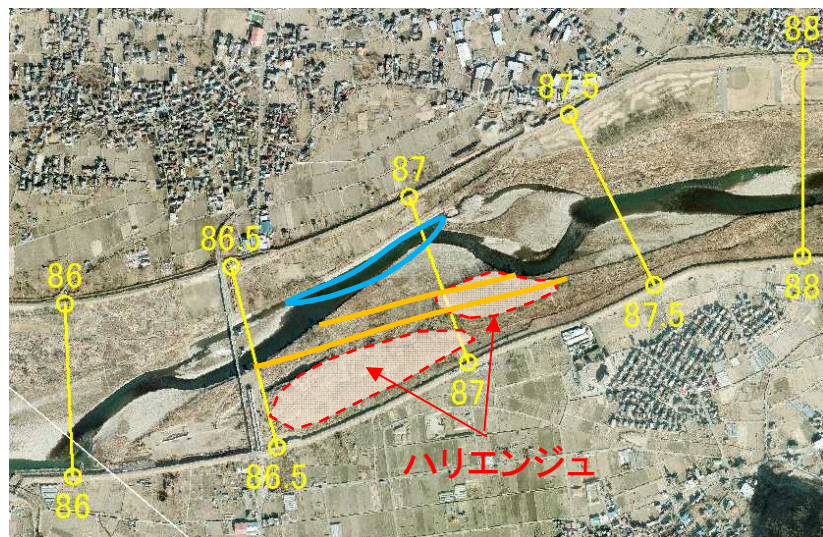
 ハリエンジュ群落(対策候補地)
 ハリエンジュ群落(民有地・構造物周辺等)

事業箇所への河道の変遷

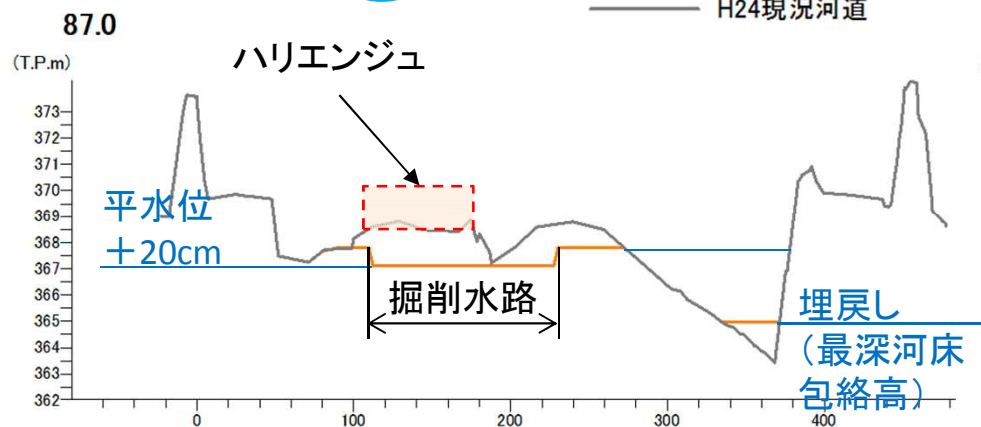


対策案の設定

対策案1: 掘削水路



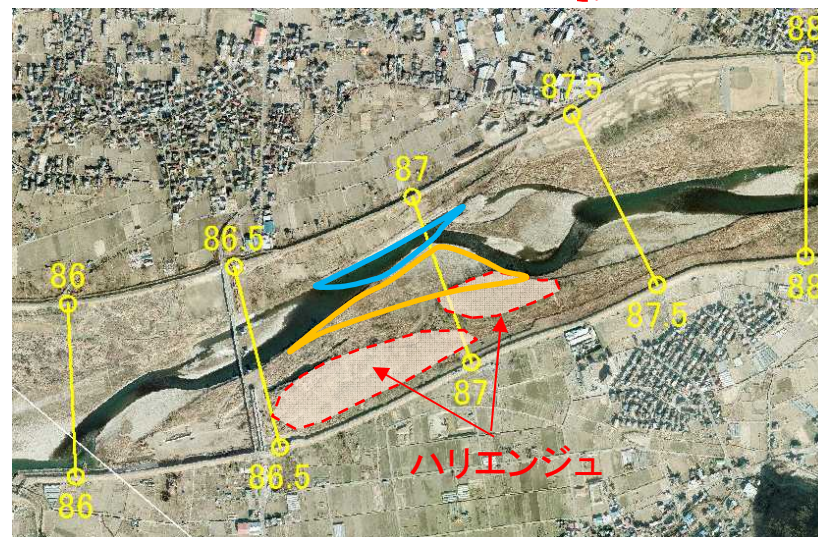
— 掘削水路 ○ 埋戻し — 対策案(掘削水路)
— H24現況河道



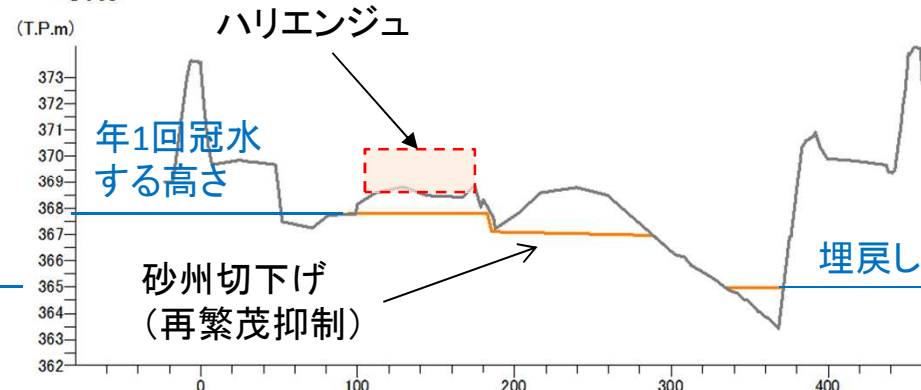
新たに水路を掘削することにより、洪水の流れを分散させ、深掘を緩和

対策案2: 砂州切下げ

(○) ハリエンジュ群落



○ 砂州切下げ ○ 埋戻し — 対策案(砂州切下げ)
— H24現況河道



平常時に流れている部分の幅を広げ、洪水の流れを分散させ、深掘を緩和

対策効果を維持するための方策(巨石配置)

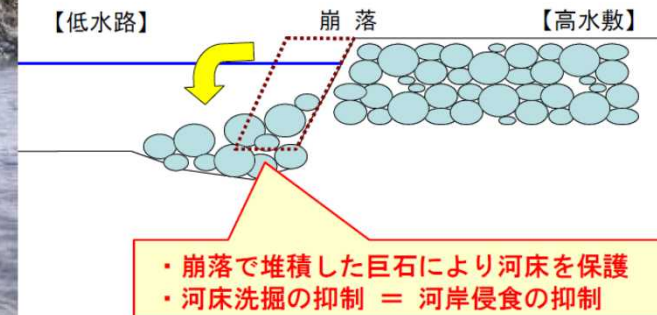
- 礫河原再生後、埋戻した局所洗掘箇所が洗掘すると、再び比高差が拡大し、治水への影響や植生の再繁茂等が生じる可能性がある。
- そこで、効果の維持の観点から、自然河岸の侵食メカニズムを考慮した「巨石付き盛土砂州を用いた河岸防護工」※を行うものとする。

※治水と環境の調和した新たな河岸防護技術の手引き(H25.3)北陸地方整備局河川部

巨石による河岸防護工： 巨石があることで静的平衡状態を形成

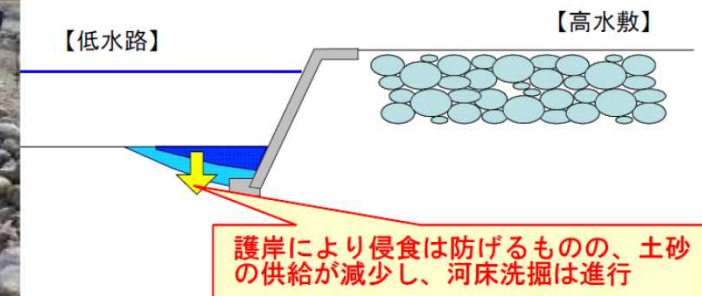
【自然河岸】

- 流水の作用で砂礫が流され、河岸の巨石は安定を失い崩落
- 水路幅は徐々に広がり、水中の河岸の傾斜は安定勾配を形成



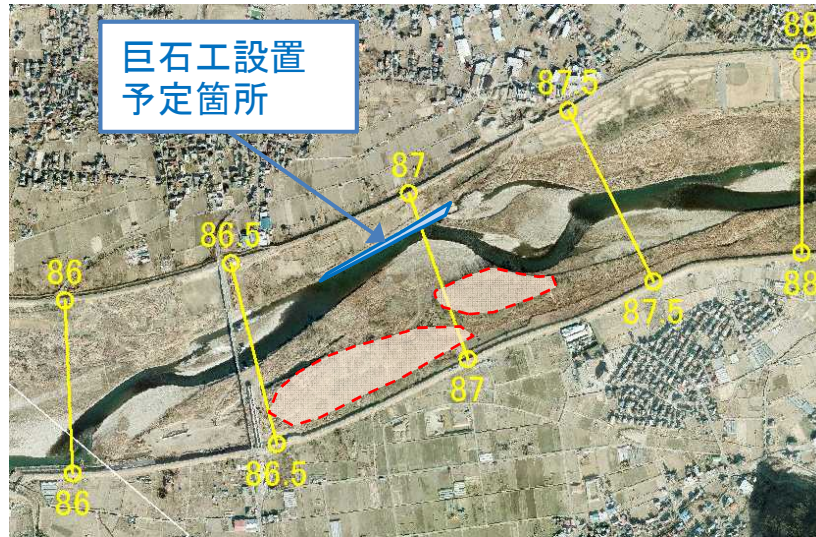
【従来の護岸】

- 河岸からの土砂供給がないため、河床が洗掘、巨石が河床から現れることで安定河道を形成
- 自然河岸の河道に比べて河岸際の深掘れが進行



対策効果を維持するための方策(巨石配置)

巨石工設置予定箇所



- 右岸側の埋戻し箇所に巨石を設置
- 「治水と環境の調和した新たな河岸防護技術の手引き～巨石付き盛土砂州を用いた河岸防護工～(H25.3)北陸地方整備局河川部」を踏まえて設定

